

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 26 年度

事業所番号	2794600045		
法人名	社会福祉法人 寿光会		
事業所名	グループホーム太寿		
所在地	大阪府柏原市太平寺1-4-30		
自己評価作成日	平成 26年 10月 5日	評価結果市町村受理日	平成 26年 12月 5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2794600045-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター
所在地	大阪府中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 26年 10月 16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人のケア目標でもある『入居者・利用者それぞれの生活が尊重され、主体的にその人その人らしく、こころ穏やかに暮らせる場の創造を目指します』を基に、ユニットケアの重要性を鑑みてサービスの提供を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体法人は市内で30年以上地域に貢献してきた社会福祉法人で、より地域に密着した高齢者施設の一つとして開設された、4年目のグループホームです。法人の理念「周りの人の幸せを願うところに自らの幸せもある」を掲げ、年頭には法人全体の職員で共有し、実践に取り組んでいます。ホームは3階建て建物の1階部分にあり、地域交流スペースを併設しています。各居室の窓は開放されており、利用者は居室前の庭へ自由に出られるよう工夫しています。また、屋上は庭園になっており、車いすの利用者もエレベーターホールから直接出ることができます。屋上庭園からは地域の街並み風景や生駒山系の四季折々の景色、花火大会など、季節を感じて暮らすことができ、家族にも喜ばれています。開設時から働く職員が多く、パンフレットにも掲載している「笑顔の快護を心がけたケア」を実践しています。管理者はより質の高いケアを利用者に提供できるよう、職員のスキルアップにも努めており、今後に期待ができる事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に理念を意識して話し合いの中に入れ、毎日の介護支援している	経営理念に「周りの人の幸せを願うところに自らの幸せもある」と掲げ、理念を基に職員間で話し合い、「入居者・利用者のそれぞれの生活スタイルが尊重され、主体的にその人らしく、心穏やかに暮らせる場を目指します」をケア目標として、個別のケア方針を作成して職員間で共有し、実践につなげています。職員モットーの「自らが入居・利用したいと思う施設の創造」も、職員が目につきやすい場所に明示しています。理念は毎朝のミーティングで唱和し、研修生や実習生もケアの方向性を共有して、サービスに取り入れています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	秋祭りや夏祭りのだんじりの休憩場所に施設を提供している。 その時には入所者さんがだんじりのそばに行き写真や地元の子供たちや保護者の方たちと話して交流している。 お正月は地元の氏神様に初詣に行つて、恒例行事の「とんど」では神社の公園に行き地元の皆さんと交流している	同じフロアに地域交流スペースがあり、毎月地域のボランティアを受け入れています。秋祭りや夏祭りのだんじりの休憩場所として、ホームの敷地も提供しているため、毎年近くで見学することを楽しみにしている利用者もいます。家族が、大正琴のボランティアとして訪問されたことをきっかけに、法人内の事業所につながり、家族にも喜ばれています。年に2回、近隣のコンビニより出張販売があり、利用者は買い物を楽しむことができます。管理者は、現在ボランティアセンターに裁縫のボランティアを申し込んでおり、裁縫が得意な利用者が地域の方と裁縫を通して交流が図れるよう、取り組んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	食材の買出しには入所者さんと一緒に近くのスーパーに行きレジでの支払いや品物の袋入れている姿を見てもらうことにより認知症の理解をしてもらっていると思っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	必ず家族代表と管理者がそろって会議に出席し毎日のことやGH内のイベントなど報告、話し合い、意見、助言を聞く。その結果もGH内に持ち帰り朝の申し送り時や、ミーティング時に話し合い、毎日の介護支援に活かしている	運営推進会議は規程を定め、年6回開催しています。会議メンバーは利用者・家族、地域住民代表、地域包括支援センター職員、市職員、市社会福祉協議会地区担当委員、職員で構成し、メンバー表も作成しています。会議では活動報告や行事報告、今後の予定などを報告し、意見交換を行っています。また、ヒヤリハット事例報告を行い、サービスの向上と家族の理解を得られるように努めています。会議では、市職員からも情報提供があり、家族や地域住民とも意見交換を行っています。議事録は、事業所のホームページで公開しており、ホームページで確認ができない家族には、来訪時に閲覧できるような方法を検討しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月の運営推進委員会後 市町村担当者と連携してGHの実情を報告してコミュニケーションを築くようにしている	ホーム開設時から、市の担当者とは密に連絡を取り、相談ができる体制を構築しています。職員は、市のグループホーム連絡協議会や施設ケアマネジャー会議に参加し、情報交換を行っています。外部評価結果や事故報告書は迅速に提出し、担当者に相談しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	多動な方には昼夜のスタッフの連携を密にして(ノートに書いたり口頭で伝えたり)見守り強化をし、状態により居室変更をして身体拘束をしないケアに取り組んでいる 帰宅願望の強い方にはスタッフが付き添い、GH周辺やGH内の散歩して気分転換で対処している。	運営規程に身体的拘束等の原則禁止、高齢者虐待防止を明記しています。職員は、事例検討会を行い、「身体拘束を行わない支援」について学ぶ機会にしています。重要事項説明書には身体拘束原則禁止を明記し、入居時に家族へ説明しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員には回覧により研修の機会を作っている。 日ごろにスタッフの言動、行動にも管理者は目をくばり注意を払っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前の入所者さんが成年後見制度を利用されていたのでスタッフには口頭で説明し学ぶ機会もあったと思う		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約には管理者とケアマネが入所される本人、家族が面談に行き十分な説明をして家族さん、本人さんには疑問点など伺い不安がないような状態で入所してもらうようにしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所者さんとは常に会話をしてコミュニケーションをとり「してほしい事、したい事」を聞き希望に添えるようにしている またGHの行事には入所者さんに相談、用意など一緒にしている。 家族さんとは訪問時は必ず本人さんの日ごろの様子など報告してコミュニケーションを摂るようにしている	職員は、利用者と日常ケアの中で得た要望等を職員間で話し合い、実現できるように取り組んでいます。また、家族には、来訪時に希望や意見を聞くように心がけています。運営推進会議には、毎回家族が参加し意見交換を行っています。利用者の日々の状態について、「連絡ノート」を作成し、来訪時に家族より率直な意見等を記入してもらいます。「新しい職員の名前がわからない」との家族の意見により、廊下に全職員の顔写真の明示に取り組み、利用者にも理解を得られた事例があります。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティングの場でも毎日の申し送りの連携時にも職員の意見を聞く機会を作っている	管理者は、毎日の申し送りや月1回のミーティングで、職員の意見を聞く機会を設けています。職員の定着率は高く、職員間は日頃から、自由に意見交換ができやすい雰囲気にあります。管理者は、今後職員の運営推進会議への参加や市社協等が開催する研修等への参加を促し、情報は職員間で共有して、より質の高いケアを目指しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場の環境作りに、気配りをしているも人員不足にて、できていない所もある。給与・労働時間においては、きびしいと思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人員不足にて、研修を受ける機会の確保は、出来ていないが、毎日の仕事の中で学んだり、資料での働きかけをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域でのグループホームの事業所部会に参加をして、同業者の交流をしたり、地域への認知症についての話等の発信活動も取り組んでいる。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談から始まり入所後も常にコミュニケーションを取り信頼関係をくづくように努力している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面談で入所時の不安や要望など聞き信頼関係を築くように努力しています 入所後も電話で本人さんの様子など伝え不安をとり除くようにしています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	常にスタッフ全員が本人の様子を見守りその時、その都度、最良のサービスや対応をするように努力しています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできることをすばやく観察して見極め家事やご自分の暮らし全般にスタッフとともに作業するようにしています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	請求書や領収書などを配布する際には必ず家族さんに本人も生活の様子や最近も困り事など、伝えて解決できることは相談して頂ける所は協力して頂き、安心していただけるようにしています		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人、家族さんなどが出入りしやすい環境作りをしています。 スタッフの笑顔などが含まれます。また馴染みのスーパーや思い出のある場所などドライブに行くようにしています	職員は、日々のケアの中で「笑顔の快護」を心がけ、ホームの中でも利用者同士が馴染みの関係を築けるよう、支援しています。併設施設の短期入所を利用する友人と交流をする方や、近所の友人が訪ねてくる方もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆が集えるロビーでは、スタッフが橋わたしになり共通の会話するように努力している 皆さんが好きなテレビをかけて皆さんが楽しんで頂けるように気配りしています		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用者が終了した方も次の施設や入院先でスムーズにサービスが受けられるように在GH時の様子など用紙や口頭で伝え、相談があれば受けるように努めています		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとり常に話をして希望を聞きそれをスタッフ全員で把握するようにしている。常に思いやりある気持ちで一番本人にとっていい方法で対応している	利用者一人ひとりの担当職員が中心になり、利用者の思いや意向の確認に努めています。把握した内容は「連絡ノート」に記入し、職員会議で報告して共有化に努めています。管理者は、以前取り組んでいた24時間シートを再度活用して、利用者の思いや意向を更に的確に把握し、支援に繋げるよう検討しています。近くのコンビニと連携したお菓子類の出張販売は、利用者が自分で好きなものを買ひ、お金を支払う楽しみとして支援を継続しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅時の家具や馴染みの品物など持ってこれそうなものは持って来ていただいています。在宅時の情報は担当ケアマネなどから情報は必ず連携しています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室で静かに過ごしたい方ロビーで皆と一緒に賑やかに過ごしたい方などその方の希望する過ごし方をしてもらっている。常に入所者さんがどこにいるか確認し見守っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成した介護計画書を簡素化し文章にしていいつでも介護しながらでも見れるようにしています また、常に朝の申し送り時や機会があれば話し合い意見をもらっている	計画作成担当者は、原則として6ヵ月毎に介護計画書の見直しをしています。モニタリングは、毎月介護職員と共に行い、6ヵ月毎にアセスメントを行い、必要に応じて担当者会議を開催し、関係者で検討しています。介護計画書の支援内容は、拡大版をケース記録の1ページ目に添付し、介護職員にわかりやすいようにしています。介護計画書は、家族や利用者にも説明し、サインを得ることを支援の一環として継続しています。利用者の急変時に、経過を見る期間が長くなり、結果として介護計画書の見直しが遅れている事例があります。	利用者の状態が急変したときは、日常的な支援の内容が変わることから、介護計画書を見直すことが望まれます。また、担当者会議に医師や看護師が参加されていない状況があります。服薬支援等が必要な場合は、医師や看護師の指導・助言を得て、関係者で共有した介護計画作成を検討されてはいかがでしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録はその都度記入している。本人の様子を記録するようにはしているがまだ徹底していない。気づきはミーティング時などで話あっている。その都度ゆっくり書いている時間や心の余裕はない。スタッフにはモニタリングで意見や気づきを書いてもらっている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれ るニーズに対応して、既存のサービスに 捉われない、柔軟な支援やサービスの 多機能化に取り組んでいる	本人さんや家族の気持ちになって支援 させてもらっています。 GHでの生活すべてが本人へのサービ スです。その都度のその場面にあった 多機能なサービスをしています		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資 源を把握し、本人は心身の力を発揮し ながら安全で豊かな暮らしを楽しむこと ができるよう支援している	外出や買い物のできる心身力のある 人には買い物に同行して食材を一緒 に選んで選んでいただきます。 地域の季節的な行事(とんど、お神輿 初もうで)などの地域行事には何とか 全員参加して頂き「もう帰りたい」と訴 えされる方には施設内ですごしてい たきます		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切 にし、納得が得られたかかりつけ医と事 業所の関係を築きながら、適切な医療 を受けられるように支援している	本人一人ひとりの定期的な専門医の 受信には基本的に家族様同行で受診 していただいています。 受診時の用意やなど支援はもちろんさ せて頂き協力します。 また急な受診で家族様が都合つけれ ない時は施設からの支援も検討します	内科及び歯科については、提携医の 定期的な往診があり、利用者の状態で 適宜受診しています。その他の専門医 については、入居前からかかりつけの 医療機関へ、家族が付き添って受診し ています。緊急時の受診で家族の都合 がつかない時は、事業所の職員が 支援しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の一人ひとり普段と違う変化や気づきはその都度看護師に報告しています。いつもと同じでも一日の記録として看護職に報告して、もちろん受診の時期も相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は日ごろの本人さんの生活、身体、精神状態の連携はケアマネから稟所の経過や医療の連携は看護職から連携しています。 また退院時にもCWCさんからの連携情報交換、相談もしています。 市民病院にはお世話になっています		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合い行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所面談時には施設の出来ることを説明させていただき話し合っています。 重度化した時の入院時期や介護度にあった施設などの申し込みの相談もしています	事業所の指針で、看取りの支援をすることを明確にしています。入居時に利用者と家族に説明し、意思の確認をしています。事業所では終末期の支援の経験がなく、職員は今後の課題として認識しています。管理者は、今後マニュアルを作成して行く方向です。来月には、職員研修の開催を予定しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	常に急変時や事故発生時の応急手当で、スタッフ対応などは話題にはしてませんが、訓練までは行ってません。 4人のスタッフが入れ替わり徹底していないのが現実です		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を想定して非難訓練はしている。水害などはしていない。 非難訓練をする時は隣近所にも声かけして協力してもらっている	スプリンクラー、消火器、避難経路等の災害対策はできています。火災を想定した、対策マニュアルを作成しています。避難訓練は、昨年度2回実施しています。本年度は1回目を7月に実施する計画でしたが、事業所の都合で実施できていない状況です。管理者は、年末までに2回の訓練を実施すべく計画を進めています。事業所内に、水と少量の缶詰等の備蓄をしていますが、食料品が十分ではない状況です。	運営規程に記載していることもあり、今後は地域の協力を得られるよう工夫をしながら、年2回避難訓練を実施することが求められます。また、備蓄についても、水と食料品等を保管することが望まれます。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり人生の先輩として人格を尊重し言葉がけも気をつけて対応している。	職員は個別のケア方針を立て、日頃から一人ひとりの人格を尊重した支援を心がけています。日常の服装は利用者に希望を聞き、自分で選べるように支援を行っています。利用者間で意見の食い違いがあった場合には、職員が双方の意見に耳を傾け、本人同士が納得できるような対応や、さりげなく声をかけ、散歩に誘う等、その場を離れる対応を行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	飲み物ひとつにしても甘めが好きなのか？薄いのが好きなのかお聞きして提供しています。 飲まれてる表情も見守りしています 行動もゆっくり本人に考える時間をもってもらえるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本の時間以外は自由に過ごしていただいています。 居室で休みたい人や 居室で音楽を聴きたい人 ロビーでテレビを見ていたい人 それぞれの時間をすごしてもらおう。 天気がいい日は皆さんと相談してドライブになるときもある		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分でみだしなみをきちっとできる人以外、本人さんの希望を聞きお手伝いをしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の希望を考えたり 食事作りの準備から一緒に作ったり 片付けしたりして楽しんでいる	食事は3食共、ホームで作っています。メニューは職員が交代で作成していますが、献立では利用者の意見により変わることもあります。手作りおやつのは、利用者の意見を聞いてメニューを決めています。食材の買い物は、利用者と一緒に出かけています。利用者の好みは、日々の会話の中で聞き取っています。入居時に家族から聞き取っていますが、本人の意見を聞き取ることで嗜好が変わった方もいます。職員は、利用者と同じテーブルで同じ食事を摂り、会話をしながら食事の時間を楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の嚥下、咀嚼に合わせた食事形態、摂取量に合わせた盛り付けに配慮し、水分に関しても飲みやすいようにゼリー飲料にして、水分不足にならないように注意している。1日の水分量のチェックもしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き施行しています。一部介助が必要な人には、出切る範囲でもらい不十分な部分は支援しています。義歯使用者も同様に行います。義歯は就寝前に除菌洗浄剤を使用しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意、便意の感覚維持の為に、失敗防止の為にも、必要に応じて定期的に声かけしトイレにて排泄してもらいます。	排泄チェック表を作成し、利用者一人ひとりの排泄のパターンを把握して支援を行っています。居室にトイレが設置されており、利用者は居室のトイレで排泄を行っています。介助が必要な方には、排泄の間隔や利用者の行動を察知し、声をかけて、トイレでの排泄に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量や水分強化、軽い運動、入浴、マッサージなどの工夫をし、なるべく自然排便が出来る様に注意しています。体調や機能の問題で便秘がちになる場合は看護師に相談し下剤による排便コントロールを実施。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	不衛生にならないように又、心身共にリラックスしてもらえるように入浴剤の使用や行事(しょうぶ湯など)で季節感を味わってもらいます。入浴時間や曜日も可能な限り本人の意思を尊重しています。	入浴は、個浴で週2～3回は入浴できるように支援しています。入浴が好きな方には、希望があればその都度入浴ができるように対応しています。職員は、転倒や安全に気をつけながら入浴時間を楽しめるように支援を行っています。ゆず湯や好みの入浴剤を使用し、入浴する方がいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	元々の生活スタイルを崩さないように入居後も継続が出来る様にしています。例えばラジオを聞きながら、歌を聴きながら、温かいものを飲んでからなど…。就寝時間や消灯時間も基本的には本人に任せています。必ず戸締り確認や本人に確認してエアコン調整し快適な温度設定に配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	安全、安楽に服薬してもらうため、錠剤が飲みにくい人には服薬用のゼリー飲料やDrやNsに相談し可能なら粉碎にて服薬してもらいます。追加分の薬に関しても説明をして服薬してもらいます。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	主婦をされていた人が大半で掃除、洗濯、料理など其々の得意分野に合わせた舵の手伝いをしてくれます。女性はスーパーが好きなので、買い物も交代で行き喜ばれていますし、良い気分転換をされている。レクにも積極的に参加されている。(全て、本人の意思での参加)		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	帰宅願望のある人には家族の協力を得て電話をかけ家族の声を聞いてもらい、外出希望もできる限り希望に添えられるように日時を決め行けるようにしています。	気候の良い時は、近くの川沿いへ散歩に出かけて水の中の生き物や植物鑑賞を職員も一緒に楽しんでいます。春と秋は法人の協力を得て、利用者全員で出かける機会を設けています。外出の希望がない方にも、おやつを庭で食する日や屋上庭園を活用し、五感を刺激して、季節を感じることができるよう支援をしています。屋上庭園から見える景色は、来訪時に散歩する場所として家族にも喜ばれています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金から必要なものや希望するものを購入しています。全てのものを預かり金台帳に支出明記し(レシートにも本人のサイン明記してもらいます)使途不明金がないように明確にしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	規模時に電話をしてもらいます。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて花を飾り、行事の飾りをし、移動時の障害物がないように（独歩、手引き歩行、車椅子など）注意しています。エアコン調整や異臭にも注意しています。時間に合わせてカーテンを開閉しています。	共有空間の居間は明るく、和風のイメージで落ち着いた雰囲気になっています。台所はカウンター式になっており、職員と利用者が会話を楽しみながら食事の準備をしています。適時な間隔を保つテーブルや座席は、利用者一人ひとりの好みや状態に合わせて過ごせるように配慮し、居間で過ごす利用者は笑顔が見られ、居心地良く過ごせるような空間になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	なるべく仲の良い方たちがかたまって話せる空間を作っている。 一人になりたいと思ったら離れて座ったりされている。 そのような時は静かに見守りしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたふとんや家具を使用し、レクで創作した作品を飾られたりされている。ゴミ箱にゴミが溜まらない様に都度、捨て、ホコリが溜まらない様に一緒に素地をしています。	障子を取り付けられた居室は、和風で落ち着いた雰囲気になっています。居室には、トイレと洗面所が設置されており、プライバシーの面でも守られ、自由に過ごすことができます。利用者が使い慣れた家具やテレビ、音響家電を持ち込んで好きな音楽を楽しむ方や、家族が座りやすい椅子を持ち込み、一緒に過ごす方もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	例えばトイレのドアが開閉できない日にはドアに「あける」と張り紙をしています。		